

## Information

### せいいく夏祭り2024のご案内

今年も夏祭りのシーズンがやって参りました！  
焼きそば、フランクフルト、生ビール、  
ヨーヨー釣りなどの屋台も多く出店予定です。  
お子さんと一緒に遊びにいらしてください。

**日時** 2024年8月3日(土)  
16:00開始予定

**会場** 当センター中庭

※お車でのお越しはご遠慮ください



### 小児緩和ケアの書籍出版のご案内

総合診療部緩和ケア科診療部長 余谷 暢之

日本において小児緩和ケアはまだ未成熟の領域です。その中で、これまで当センターで取り組んできた緩和ケアの実践と海外での報告をまとめた書籍を出版しました。この本の中には、小児緩和ケアの考え方、具体的な症状緩和の方法、意思決定支援、疾患別の特徴まで子どもたちに緩和ケアを届けるために大切にしたい事についてまとめています。専門的に緩和ケアに取り組んでいる方以外にも参考になる内容もありますので、是非手に取っていただければ幸いです。



### 各所連絡先

患者ご家族からのご予約 予約センター <直通>03-5494-7300 (月~金 9:00 ~ 17:00)

●医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

救急の場合 救急センター <代表>03-3416-0181 (24時間受付)

小児集中治療室(PICU)への転送・搬送 03-5494-7073 小児救急搬送チームにつながります

新生児集中治療室(NICU)への転送・搬送 03-3416-0181 NICUにつなぐように伝えてください

母体搬送 03-3416-0181 母体搬送担当の医師につなぐように伝えてください

早期に診療が必要な場合  
セカンドオピニオン外来  
医療機器の共同利用(放射診断部) 医療連携室 <直通> 03-5494-5486 (月~金 8:30 ~ 16:30)

国立成育医療研究センター 広報 SNS National Center for Child Health and Development

国立成育医療研究センターや、成育医療に関する様々な情報を投稿しています。ぜひ、フォローしてくださいね。



発行：国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆

編集：企画戦略局広報企画室

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 電話：03-3416-0181 FAX：03-3416-2222

# 成育だより

2024  
Vol.39  
夏号

## Contents

新任のご挨拶 / NEWS

セミナーのご案内 / ふれあい通信

センターの取り組み / スペシャリスト(ひと)紹介

レジデント紹介 / 診療科のご案内

ご寄付のお礼 / 研究開発のトピックス

Information



国立成育医療研究センター

## 新任のご挨拶

このたび国立成育医療研究センター内に設置される女性の健康ナショナルセンター(仮称)設立準備室長 理事長特任補佐を拝命いたしました小宮と申します。

私は、山形大学を卒業し、産婦人科に入局いたしました。大学在学中は軟式テニス部で、テニスコートを駆け回っておりました。その後、臨床、研究のトレーニングを受け、1997年から2001年までアメリカのヒューストンにあるベイラー医科大学分子細胞生物学教室(Bert O' Malley教授)に留学しております。留学中は、ステロイド受容体コアクチベーターについて細胞やノックアウトマウスを用いた研究をしております。その後、出身地である福島にもどり、当時の産婦人科学講座 佐藤 章教授のご高配で福島県立

医科大学に入職いたしました。福島県立医科大学では産婦人科、性差医療、漢方診療、男女共同参画・ダイバーシティ推進に取り組みました。

このたび、当センターの一員として迎えていただき、日本における女性の健康促進に尽力できることを心から感謝しております。今後は、女性の健康ナショナルセンター(仮称)において性差とライフステージを意識した研究・診療に全力で取り組む所存です。みな様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

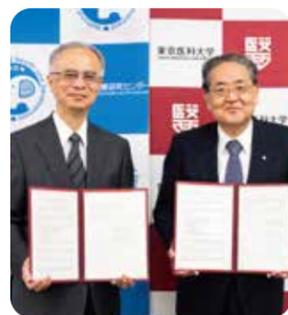
小宮 ひろみ



## NEWS ニュース

### 6月5日(水) 東京医科大学と包括連携協定を締結

当センターは学校法人東京医科大学(理事長:矢崎 義雄/東京都新宿区)と、連携・協力に関する協定書を締結し、同日に調印式を行いました。本協定は、双方が相互の技術相談や共同研究、専門職の人材育成その他の事業の実施について相互の緊密、円滑かつ効率的な連携及び協力を図り、もって人材育成の推進及び成育医療の発展に寄与することを目的としております。



右:東京医科大学 矢崎 義雄理事長  
左:国立成育医療研究センター理事長 五十嵐 隆



### 第7回医工連携Award優秀賞受賞

この度、福井県で開催された「第34回日本臨床工学会」にて医工連携Award優秀賞を受賞いたしました。医工連携とは、医療関係者と工学関係者が協同して医療の発展を目指す活動です。今回、医療機器アラーム発生時にスマートフォンなどに瞬時に通知するシステムを発売し、企業と協同開発した製品「アラーム検知之助®」にて、名誉ある賞を頂戴しました。開発企業をはじめ、本プロジェクトに携わった皆さまと

臨床工学技士 片岡 怜  
取り組んだ結果、“One Team”として受賞できましたことを心から感謝申し上げます。本製品は、在宅で医療機器を使用する医療的ケア児などの環境で、大きく貢献できると考えています。これからも、医療機器の専門家である臨床工学技士として、治療者であるとともに、社会貢献にも尽力いたします。



## 小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラムのご案内

【研修施設】当病院  
【開催期間】2024年6月~2025年3月  
【研修日数】10日間(連続2週間)もしくは5日間(1週間)  
【研修時間】平日(月~金曜日) 8:30~17:30  
【対象】小児のアレルギー診療に携わる医師(小児科、皮膚科など) 各回2~3名程度  
開催日時、プログラムなど詳細につきましては、当センターHPをご確認ください。



## ふれあい通信

### 看護の日イベントを5月14日に開催しました!

看護師長 佐藤 可理絵

看護の日はナイチンゲールの誕生日にちなみ5月12日に制定されております。当センターでも4年ぶりに「子どもと家族と女性の健康を支える看護を目指して」というテーマにてイベントを開催いたしました。

#### 5月12日は看護の日です。

##### 〇実体験: 制服を着て看護師や医師に変身!

聴診器を首にかけ、まるで本物の看護師や医師になり、人形に聴診器を当て「もしもし」体験をしました。人形に「もしもし」のはずが、いつの間にか自分の胸に聴診器を当て、「あ、聞こえる!」、次はママ、その次は妹と、驚きと発見で目を輝かせていました。

##### 〇妊婦さん体験

妊婦モデルを身につけ、歩いたり、寝転んだり、体の重さと命の重さを感じながら、日常の動作がどれほど難しくなるかを体験することができました。

##### 〇ゲームをしながら楽しく学ぶ

ワクチンとウイルスの関係を学ぶ「はしかとワクチン」のコーナーは大盛況でした。「からだパズル」のコーナーでは、ぬいぐるみの体に心臓や肺のモデルを貼りながら名前や位置を学びました。

##### 〇多職種による相談ブース

薬剤師による「おくすり相談」、栄養士による「離乳食相談」、歯科衛生士による「歯とお口の健康相談」、検査技師による「骨密度測定」、専門性の高い看護師による「低GI食品について」や「スキンケア相談」などの相談ブースも大変好評でした。参加者からは気軽に

専門職に相談することができ、良い機会になったとの声が寄せられました。

どのブースも子どもやご家族の笑顔に溢れていて、私どもスタッフもみな様の笑顔から元気をいただきました。病院が単なる治療の場ではなく、地域とつながり、安心して訪れることができる場所でありたいと改めて感じました。このイベントが多くの方々にとって、看護師等医療に携わる職業に興味をもつきっかけになることを願うとともに、当センターが地域にとって、より身近で頼れる存在になれるよう精進して参ります。

ご参加いただきましたみな様に感謝申し上げます。



# センターの取り組み

## 女性の健康ナショナルセンター(仮称)のご紹介

理事長特任補佐 小宮 ひろみ

このたび、当センター内に「女性の健康」に関する司令塔機能を担い、女性の体とこころのケアなどの支援等に関するモデル的取組の均てん化をはかるため女性の健康ナショナルセンター(仮称)が設置されます。現在、2024年度中の開設を目指し、準備を鋭意すすめているところです。

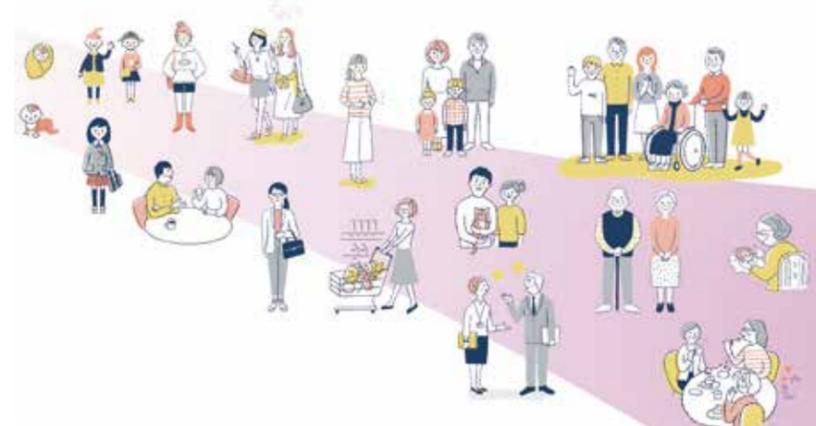
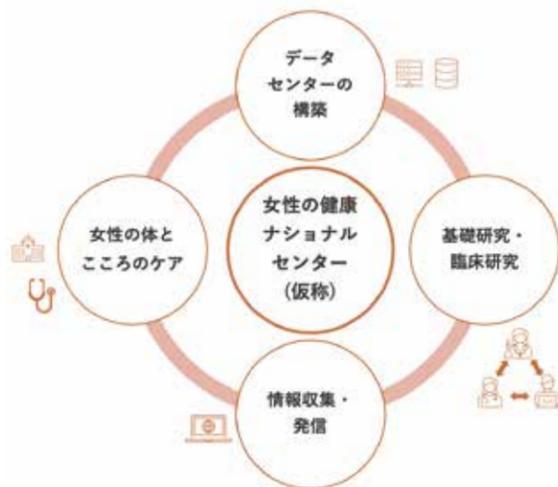
海外では、女性の健康上の課題に伴うGDPの損失は、特に労働年齢で高くなること、また、生活への負荷が高い疾病において、上位疾患の大多数を「女性に多い疾患」が占めることが報告されています。日本においても、女性特有の健康課題による労働損失等の経済損失は大きいことが明らかにされてきました。

女性の健康は、ライフコースごとに、エストロゲンなどの性ホルモンや社会・環境的因子の影響を受け、さらに妊娠・出産など男性とは異なる課題も抱えます。すなわち、身体的・心理的・社会的(bio-psycho-social)なアプローチが必要です。また、男女とも罹患する疾患や病態において、その頻度、症状、経過等が異なる場合もあり、性差を踏まえた視点も必要とされます。女性の健康ナショナルセンター(仮称)では①女性の健康に関するデータセンターの構築、②女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的推進、③情報収集・発信、人材育成、政策提言、④女性の体とこころのケアの4本の柱を軸に、女性が生涯にわたり、健康で生き生きと尊厳をもって過ごすことができる社会を目指します。また、すでに、当センターに設置されており、プレコンセプションケアセンター、妊娠と薬情報センターにおいても、その活動を拡充していく予定です。

アメリカでは1990年に性差を意識した女性の健康に関する研究組織がNIH(アメリカ国際研究所)の中にOffice of Research on Women's Health(ORWH)として設立されました。30年以上にわたり、女性の健康を促進するための画期的取組が遂行されています。女性の健康ナショナルセンター(仮称)の機能はORWHと重複する部分がありますが、さらに、日本独自の視点から研究を進め、エビデンスの構築に努めるとともに、国際的にその成果を発表し、諸外国との連携も図っていきたくと意気込んでおります。

これから、女性の健康ナショナルセンター(仮称)は総力をあげて、日本の女性が健康でいきいきと生きることが出来る時代、人生100年時代を支える医学・医療の創出・実装につながるよう尽力してまいります。どうぞ、皆様のご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

女性の健康ナショナルセンター(仮称)を支える4つの柱



## AIによる医療診断支援の未来:生成AIが切り開く新たな可能性

戦略的研究部門 医用深層学習研究室 研究員 高村 恒人

近年、医療分野におけるAI技術の導入は急速に進展しています。特に生成AIは診断支援システムの開発に革命的な可能性を秘めており、この技術を活用した診断補助は診断精度の向上だけでなく、診療のスピードアップと効率化にも大きく貢献することが期待されています。医用深層学習研究室では、最新のAI技術を駆使して、病気の早期発見と正確な診断を可能にするためのシステムを開発しています。

AIを診断支援ツールとして活用する場合、一般的には、実際に収集された医療データを解析し、パターン認識や異常検出を通して診断を支援する方法が用いられます。一方、生成AIは従来のディープラーニングモデルとは異なり、大量のラベル付きデータに依存することなく、少ないデータからも学習を進めることができます。

生成AIの活用可能性を示すため、医用画像処理における有効性を実証するデモを行いました。対象とした医用画像の二値化において、画像ヒストグラムに基づいて最適な閾値を自動的に算出させ、二値化画像における細胞部分の個数を概ね正確にカウントするというものです。

生成AIは、特にデータ量が少ない医療分野での応用において大きな利点となり得ます。この技術の進展

は、特に希少疾患や少数派疾患など、データ不足が課題となる疾患において有効であり、少ない事例から多くのことを学び取ることで、診断精度の向上に繋がる可能性を秘めています。AIは医師の診断を補完し、より確実な診断をサポートすることができます。しかしながら、AIによる解析結果は医師の専門知識に基づいて検証する必要があります。さらに、生成AIを医療診断補助システムに導入する際には、データのプライバシー保護、倫理的問題、AIの判断基準の透明性など、多くの課題を克服する必要があります。このような新たな課題を克服していく必要はありますが、それ以上に生成AIの持つ可能性は計り知れません。未来の医療を形作る私たちの挑戦に、ぜひご注目ください。

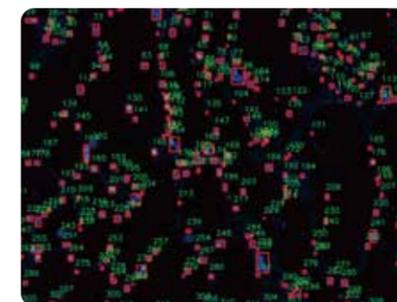


図1. 大規模言語モデル(ChatGPT)の医用画像処理にてカウントした細胞数(赤四角)

画像提供(処理前): 三谷商事株式会社, URL: <https://www.mitani-visual.jp/mivlog/software/patholo-c-01.php>

## HPVワクチン接種に関する啓発活動実施報告

感染症科 松井 俊大・幾瀬 樹

ヒトパピローマウイルス(HPV)は子宮頸がん等の原因となるウイルスで、ワクチン接種により子宮頸がんのリスクを大きく下げることができます。国内ではHPVワクチン(子宮頸がんワクチン)の接種率低下が大きな問題となっています。感染症科では、子ども予防接種週間(3月1日~7日)と国際HPV啓発デー(3月4日)に合わせて、3月4日から約1か月間、予防接種に関する啓発活動を行いました。当院1階ロビーにHPVワクチンを中心とした予防接種に関するクイズや資料を掲示し、多くの方にご覧いただきました。当科では引き続き、子どもたちやご家族のために、予防接種に関する正確な情報発信と適切な予防接種の提供に

努めていきます。



実際に行った掲示の一例

ファシリティドッグ・ハンドラー

権守 礼美(ごんのかみ あやみ)

【ファシリティドッグ・ハンドラー Facility dog Handlerとは】

医療施設などの特定施設で活動するために、専門的に育成されたファシリティドッグのパートナーとして、ペアを組んで活動する職員のことです。ハンドラーになるには、国際的な標準カリキュラムに規定される研修課程を修了することが必須になります。世界的な統括組織である補助犬育成団体によると、2022年度のファシリティドッグ(以下、FD)の導入数は2,131頭で、私が所属する認定NPO法人シャイン・オン・キッズからは、2024年現在国内4チームが派遣され、ハンドラーは臨床経験がある看護師が勤めています。

【ハンドラーになったきっかけ】

長年、小児専門病院で、病棟だけでなく手術室やICU・外来に勤務し、先天性心疾患を中心とした胎児期から成人期に至る患者家族の抱える課題に取り組んできました。2012年には小児看護専門看護師の資格を取得し、子どもたちとご家族が「主体的」に意思決定できること、自分らしく、本来もつ「力」を発揮できることを大切に、その一助となるよう、「キッズセミナー」などの体験型イベントや親の会と共催で「運動会」なども企画運営してきました。勤務先ではFDがすでに活躍しており、患者家族からの「静かに寄り添って欲しい時がある、FDに学んだらいい」といったしゃべり過ぎる医療従事者へのご指摘などから学びを得ることもあり、FDは大切な医療チームの一員だと感じていました。その頃は、新たなFD導入病院もなく、まずは目の前の課題解決のために成人領域のケアも学ぼうと循環器専門病院に勤務しました。その後新型コロナウイルス感染症流行による自身の働き方を考えていた時、ハンドラー募集を知りました。療養中でも子どもたちがさまざまな経験を経て、日々成長し世界を広げられるような機会があって欲しいという想いよりご縁があって今に至ります。

【ファシリティドッグの活動】

FDマサと私は平日5日間勤務で、動物福祉の国際ガイドラインをもとにしたハンドラー指針に則り活動しています。触れ合いや遊びを通して、子どもたちの成長発達を促すだけでなく、信頼関係を構築し、計画的に治療、採血や点滴確保、CVの包交などの処置に伴います。子どもたちは、笑顔で「マサとなら頑張れる!」「マサとなら廊下をお散歩する」と声をかけてくれます。大好きなゲームも出来ないほど気分がすぐれない時でも、「マサが来ると気持ち悪さがなくなるんだよね」と起き上がり、穏やかな表情になり活動し始める子どもたちがいます。終末期が予測される場合は家族のように寄り添います。FDの活動を知ってもらうんだと、自由研究に取り組み、支援の活動にも繋げてくれる子どもたちもおり、社会参画の一つにもなっていることが最近わかりました。今後も、より一層他職種とも連携しながら、子どもたちとご家族、チームと目標を共にして、活動を続けていきたいと思っています。



新野 一眞 (しんの かずま)



兵庫県出身で京都大学を卒業後、国立埼玉病院で初期研修を修了しました。趣味は旅行、キャンプ、ウイスキーです。リソースとネットワークが充実した成育の環境を最大限活用し、臨床・研究で小児医療・小児医学に微力ながら貢献出来るよう、目の前の仕事に真摯に取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

山崎 麻衣 (やまざき まい)



神奈川県出身で新潟大学卒業後は横浜南共済病院で初期研修を行いました。子どもたちの成長を医療の面から支え、寄り添うことのできる小児科医になりたいと思っております。尊敬する先輩、志の高い同期をはじめ温かな職員の皆様と共に研修できることを大変嬉しく思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

銚立 春響 (ほこたて はるき)



鹿児島県で生まれ、北海道で育ちました。九州大学を卒業後、湘南藤沢徳洲会病院で初期研修を修了しました。臨床・研究・行政の橋渡しとしての中枢を担うこの成育でまずは臨床に日々励みたいのです。将来は中低所得国で乳幼児死亡率を低減させる新生児科医になれるよう精進いたします。よろしくお願い申し上げます。

鈴木 麻由佳 (すずき まゆか)



東京都出身で東京医科大学卒業後、東京大学医学部附属病院で初期研修を修了しました。趣味はパン作りで焼き立てのパンの匂いに癒されています。優秀な先輩方や同期に囲まれた環境で研修できることをとても嬉しく思っています。お子さんやご家族に寄り添った医療を提供できるよう日々精進して参ります。

檜岡 凱 (ならおか かい)



秋田県で育ち、東北大学を卒業後、仙台市立病院で初期研修を行いました。成育で優れた先生方や同期に囲まれながら日々知識と経験を積み重ね、充実した研修生活を送っております。未来ある子供たちの成長の手助けをできるよう、精進していきます。何卒宜しくお願いいたします。

貝塚 杏菜 (かいづか あんな)



東京都出身で東北大学を卒業後、東京医療センターで初期研修を修了しました。趣味はランニングや登山などで、体を動かすことが好きです。病気だけでなく社会心理的背景にも目を向け、ひとりひとりと向き合える医師になることが目標です。子どもたちと一緒に成長できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

森田 絵美里 (もりた えみり)



神奈川県出身、東京女子医科大学を卒業後、東京医療センターで初期研修を行いました。粘土・紙工作など、何かを作ることが大好きです。素晴らしい先輩方や仲間と出会い、多くの子ども達と触れ合い沢山のことを吸収できる成育という環境に身を置くことを大変嬉しく思います。日々精進して参りますので何卒よろしくお願いいたします。

黒田 唯夏 (くろだ ゆか)



神奈川県横浜市出身で、東京女子医科大学を卒業後、神奈川県内で初期研修を修了いたしました。趣味はテニスと旅行で、食べ物ではチョコとアイスが好きです。子どもたちとご家族に寄り添い、一人ひとりの声に耳を傾けられる小児科医になれるよう精進いたしますので、よろしくお願いいたします。

竹村 勇飛 (たけむら はやたか)



千葉県出身で秋田大学を卒業後、千葉県にある国際医療福祉大学成田病院で初期研修を終えて参りました。様々な診療科や職種があり、小児医療を学び実践する上でこれ以上ない環境だと思っています。将来の明確なビジョンがまだ確立しておりませんが、様々な機会を積極的に掴み、子どもたちに還元していきたいと思っています。

山田 夏彦 (やまだ なつひこ)



幼少期を米国で過ごした後、小学校から東京で暮らしております。東京医科歯科大学を卒業後、沖縄県立中部病院で初期研修を修了しました。趣味はテニス、海外旅行、読書です。小児科専門研修とJohns Hopkins Bloomberg School of Public HealthのMPHを両立し、世界中の子どもたち、ひいては人類全体の幸福に資するような人材になりたいです。よろしくお願いいたします。

前野 拓郎 (まえの たくろう)



鹿児島県出身、鹿児島大学を卒業後、鹿児島協病院で初期研修を修了しました。日本の最高峰を経験したいと思い、成育での研修を志望しました。指導熱心な先生方や先輩方、熱意溢れる同期の皆さんのお陰で充実した日々を過ごしております。笑顔忘れずに、子どもたちと家族に寄り添った診療を目指して精進してまいります。

西村 夏音 (にしむら なつね)



奈良県出身、旭川医科大学卒業。沖縄県で初期研修をする中で、こどもの身体・社会・心理的背景が密接に関わっていることを実感しました。発達やこころの仕組みを学び、総合的な力を培うために当センターを選びました。この素晴らしい環境で、頭脳派な同期や人間味溢れる先輩方たちから3年間で色々吸収したいと思っています。

眞鍋 大希 (まなべ たいき)



九州で育ち、富山大学を卒業後、沖縄県立南部医療センターで研修しました。趣味はドラムやライブ鑑賞です。様々な背景の子どもとその家族が集まり、提供する医療の幅も広いことに魅力を感じ、成育を選びました。常に子どもひとりひとりの味方となる医師でありたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

有井 滉子 (ありい ひろこ)



東京都出身、山梨大学を卒業後、国立病院機構東京医療センターで初期研修を終了いたしました。趣味は旅行、テニスで、おいしいものを食べに行くことが好きです。教育体制が充実しており、素晴らしい先輩方や同期に囲まれながら、少しでも多くのことを学べるように日々精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

# 診療科のご案内

## 栄養管理部

室長 宮本 佳世子 副室長 関 佐知子 主任 中西 アリカ

部長 野坂 俊介  
調理師長 米山 孝之

この4月より成育に参りました栄養管理室長の宮本 佳世子と申します。以前は当院と同じ国立研究開発法人の国立精神・神経医療研究センター病院に勤務し、精神科ではうつ病を中心とした精神栄養学について調査研究を行い、脳神経内科ではパーキンソン病やてんかんの方々の嚥下障害や低栄養についての栄養管理を行って参りました。それ以前は国立病院機構の病院に勤務しており、関連施設内の異動は当院で10か所目となります。今まで様々な診療科を経験してまいりましたが、当院のような成育に専門特化した施設で働くことを楽しみにしており、勉強させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは当部の紹介をさせていただきます。

当部は、部長の野坂医師他、管理栄養士7名、調理師7名、調理助手2名、給食委託職員43名(2024年6月現在)で、他部門とは異なり管理栄養士以外に複数の職種や所属の異なるスタッフで構成されています。臨床栄養管理では様々なチーム医療に参画し、適切な提案や助言が出来るように日々自己研鑽に励み、適正な臨床栄養管理と食事の提供(給食管理)を心掛けております。

### 1.入院中のお食事について

当院の食種は90種類です。しかし食事基準以外の「個別対応食」があり、かなり多くの食種を取り扱っています。また難治性てんかん患者さんへの「ケトン食」、厚生労働科学技術研究の一環で実施している「レインボー食」(好酸球胃腸炎用の食事)といった特殊な食事にも対応しています。乳児用ミルクは特殊ミルクを含め、取り扱い43種類、濃厚流動食(半消化態)は7種類で、これらを患者さんに応じた希釈濃度に調整しご提供しています。このため1日の調乳量(経腸栄養剤含む)は200ml瓶で概ね1000本以上です。入院中の食事は入院期間中の栄養管理計画や栄養食事指導の「具体的な媒体」となります。そこで臨床栄養学的見地を踏まえ、「食」を楽しみながら治療に貢献することが当部門の大きな目的の一つです。

### 2.チーム医療について

当院では入院患者さんへ、看護師による栄養状態

のスクリーニング、医師による栄養状態の判定や管理栄養士による栄養アセスメントを実施し、入院中の栄養管理を多職種連携で行っています。その他にもNST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム、ICUラウンド、子どもサポートチーム、入院サポート室、プレコンセプションケア等のチーム医療に参画しています。

### 3.栄養食事指導

当院の栄養食事指導は、主に妊娠糖尿病・小児肥満・食事の形態調整が必要な方が中心です。

患者さんにより指導内容は千差万別ですが、個人個人に寄り添い、食生活改善やその維持が出来るよう行動変容を促し、治療に貢献しています。

### 4.その他

管理栄養士が病棟に出向き、目の前でおやつを作る「出張おやつ」や、手作りのおよつ提供、お誕生日メッセージカードとデザート提供、各種行事食の実施やメッセージカードの提供等サービスに努めています。また非常災害時用の食品管理も行っています。臨床栄養管理では臨床研究協力、管理栄養士養成大学の学生の臨地実習、更に大学との連携による研究調査等を実施しています。

今年度4月より、新メンバーが加わりました。従来業務の更なる向上を目指し、栄養管理における地域連携や積極的な情報発信を心掛けて行きたいと思っております。



後列左より 後藤栄養士 米山調理師長 筆者(宮本) 木治屋栄養士  
前列左より 戸村栄養士 中西主任栄養士 関副栄養管理室長 石井栄養士

## 神経内科

診療部長 阿部 裕一

神経内科では脳、神経、筋肉に関連する症状や疾患について診療しています。大人の脳神経内科で扱っている疾患の対象とは異なり、発達や成長に伴って発症する小児期特有の疾患や発達そのものの問題を診ています。小児神経疾患は、遺伝的な素因による疾患、感染症やそれを契機に発症する疾患、自己免疫性神経疾患、神経以外の臓器疾患に伴う神経症状など原因は多岐にわたります。またそれぞれの疾患でも急性期と慢性期では症状や問題が異なることも多く、それぞれの段階で患者さんの状態に寄り添った診療を心がけています。

### 診療内容

当科外来を受診する理由としては以下のような症状があります。

#### □発達が遅い:

運動発達が遅い/言葉が遅い

#### □出来ていたことが出来なくなった:

退行

#### □気になる動きや仕草がある:

チックをはじめとする運動異常や眼振、歩き方が気になるなど

#### □痛み:

頭が痛い、手足が痛い

#### □睡眠の問題:

眠れない、ずっと眠い、睡眠が不規則

#### □けいれん発作/意識消失:

ひきつけを起こした、意識がなくなって倒れた

気になる症状については、特に以下のようなことが重要です。

- いつ頃からあるのか
- 続いているのか、良くなったり悪くなったりするのか
- 体のどの部分のどのような症状か

### 代表的な疾患

#### てんかんについて

てんかんは脳が原因でおきる発作症状を繰り返す慢性疾患で、有病率は100~200人に1人と非常に多く、特に小児期発症のてんかんでは新生児期から学童期/思春期までの間にそれぞれの年齢層で起きやすいてんかんがあることが知られています。

てんかんの発作には様々な症状があり、全身性のけいれん発作だけでなくボーッととして反応がなくなるだけの発作など、患者さんによって少しずつ症状が違いますし、予後もさまざまです。またてんかんが疑われる症状でも実際にはそうでない場合もあるため、しっかりと診察や検査を受けた上での診断が重要です。神経内科は当院の「小児てんかんセンター」の中心となって診療をおこなっています。

当科では患者さんの症状に合わせて身体診察や様々な検査を組み合わせておこなうことで診断と治療をおこなっています。気になる神経症状がある場合にはかかりつけの先生より紹介状をご準備の上医療連携室を通して初診外来のご予約をお願いいたします。



後列: 西岡 篤史、立木 伸明、阿部 裕一、入江 紗瑛子、早川 格  
前列: 高橋 達也、井田 紘人

## ご寄付のお礼



2023年度の成育基金(アイノカタチ基金)は、総額5,366万円のご寄附をいただきました。温かなご支援をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。

2023年度における成育基金の用途について、一部をご紹介させていただきます。

### おりがみツリーの制作とイルミネーションの設置

クリスマスの時期に合わせて、おりがみツリーとイルミネーションを飾りました。院内の巨大ツリーや中庭の装飾に目を輝かせる子どもたちの明るい表情が印象に残っています。ご寄附で購入させていただいたおりがみやイルミネーションによって、誰もが楽しむことのできる季節の企画を実現し、当センターに心温まる素敵なクリスマスが訪れました。



### ファシリティドッグ・マサの活動

ファシリティドッグとは、特別な訓練を受けた犬のことです。マサは2021年に当センターで活動を開始しました。優しく寄り添うマサの活動が、患者さんにとって大きな励みや癒しとなっています。当センターに欠かせない存在となっているマサの運営費用については、その大部分を成育基金より賄っています。小児医療・成育医療という特色を有する当センターが、少しでも安心感と安らぎを与えられる場であるよう、これからも最適な運営に努めます。



## アイノカタチ基金(成育基金) 2023年度下半期(10月~3月)

### 団体・法人(敬称略)

あさや法律事務所  
アシスト二子玉川  
一般財団法人mudef  
一般社団法人みんなのレモネードの会  
医療法人社団マサカクリニック マサカ内科小児科  
大蔵剣道倶楽部  
貝印株式会社  
株式会社グローウィングつな髪  
株式会社SUMCO  
株式会社ZN商会  
株式会社グッドウェイ  
株式会社メディカルレビュー社  
kolmikko  
産婦人科・小児科オンライン(株式会社Kids Public)  
住宅情報館株式会社  
千葉骨髄バンク推進連絡会  
東京ウィルライオンズクラブ  
東京地区ライオンズ  
日本産業パートナーズこども基金  
(認定)特定非営利活動法人リブ・フォー・ライフ美奈子基金  
松本大税理士事務所

### 個人(敬称略)

浅見 きぬ江  
家田 俊也  
井川 光子  
伊藤 博  
入川 ふさ子  
岩崎明美/大多喜眼科  
岩永 良児  
宇仁 裕美子  
大嶽 みゆき  
大柳 高幸  
笠井 三男  
菊池 美樹  
北城 悟太郎  
久保 史生、久保 文  
桑原 弘純  
ココロのバリアフリー計画  
駒瀬 裕子  
古山 三貴子  
権藤 智行  
齋藤 国雄  
坂上 美弥香  
わくわく博物館アドベンチャー

澤 玲子  
島田 佳祐  
柘植 太郎  
坪井  
刀禰 真之介  
内藤 長生  
中島 一紀  
中村 佳史  
如意 仁詞  
BACK HOME project  
廣瀬 茂一  
三澤 雄一朗  
水澤 実咲  
三宅 和宣  
村田 友梨  
森田 祐子  
藪崎 将  
山岸 直樹  
山本 聡  
山本 英輝の父  
理乃碧王  
渡邊 毘駕



子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療育環境の改善のためにご寄附をいただくとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。

<https://www.ncchd.go.jp/donation/application.html>



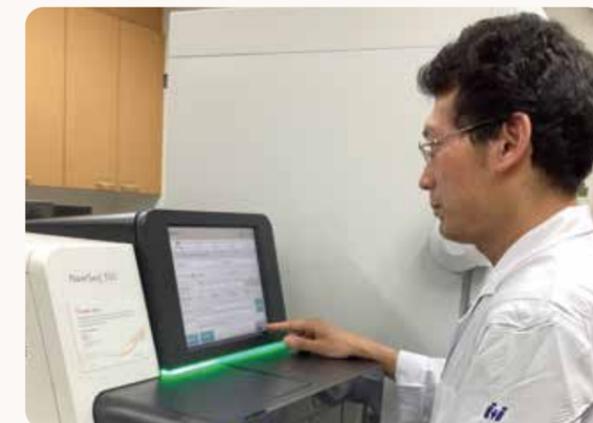
## 研究開発のトピックス

### ゲノム・エピゲノム解析センター

ゲノム・エピゲノム解析センターは、成育医療研究センターにおけるゲノム医療を推進する組織として2022年9月に設立されました。ゲノム医療とは、遺伝子情報(ゲノム)を調べ、その結果をもとに病気の診断や治療を行う医療です。小児期に発症する疾患をもつ患者さんやご家族ではゲノム解析が役立つことは少なくありません。ゲノム・エピゲノム解析センターは病院の遺伝診療センターと密接に連携し、患者さんやご家族の遺伝学的解析を実施して診断や治療に役立つ情報をお返ししています。

例えば、新生児集中治療室に入院する重症の赤ちゃんには遺伝性疾患にかかっている患者さんが多く含まれることが最近の研究で示されました。病気の原因が分かることは治療方針決定においてとても重要です。ゲノム・エピゲノム解析センターでは、短期間で解析結果を得るための「迅速ゲノム解析」体制を構築しその運用を今年度から開始しました。

さらに、医療におけるAI活用の期待、そしてビッグデータの価値がますます高まる状況において、病院と研究所それぞれが持つ価値あるデータと経験を情報として即時共有し、整理・統合する体制がこれからの医療の鍵であると考え、その基盤作りも進めています。



## 臨床研究センター

### 臨床研究相談・支援窓口のご利用案内

国立成育医療研究センターでは、医療と医学研究の相補関係を構築するため、医療機関をはじめ企業あるいは大学などからの臨床研究、治験等に係る様々な相談(臨床研究・治験の実施や統計解析を含む)を受けつける臨床研究相談・支援窓口を設けています。医薬品・医療機器などの開発、臨床におけるResearch Questionの解決に是非ご利用ください。

#### <相談及び支援の内容>

- 臨床研究、医師主導治験、企業主導治験の実施・計画策定などに関する事
- 疫学調査の実施・計画策定などに関する事
- 臨床研究データベースとして「成育REDCapシステム」の利用に関する事
- 知財・産学連携に関する事
- 遺伝子細胞治療に関する事
- 各種講演、講義の講師派遣等に関する事
- その他、臨床研究・治験などの相談・支援に関する事

#### <直近3年間の相談件数>

	2023年度	2022年度	2021年度
成育内	73件*	144件	153件
成育外アカデミア	47件	30件	21件
営利企業等	22件	34件	17件
計	142件**	208件	191件

\*2023年度より集計内容を変更した。(旧カウント方法: \*127件、\*\*196件)

#### <申込方法・費用など>

相談日時・時間・場所: 申込後に日程調整を行います。1時間程度。Webを含むご指定の方法で実施します。  
相談費用: 初回は無料。その後、引き続き各種相談・支援を希望される場合は当センター規程の費用がかかります。

申込方法: 相談をご希望の方は、下記より電子メールにてお申し込みください。

<https://www.ncchd.go.jp/scholar/clinical/section/madoguchi.html>